



2.1.0β 1995-2002, Nihondo

Regular Expression Plug-in Beta5 For Japanese By Takaaki Mizuno 1999-2002  
Yoffy Plugins 1.5.1 Copyright 2000-2002 Yoffy.

## 目次

はじめに.....	1
チュートリアル.....	1
辞書の編集.....	3
校正中の操作.....	5
ワークスペースを用いた校正.....	6
環境設定.....	7
AppleScript <sup>TM</sup> の利用.....	9
辞書の移行.....	9
校正待ち書類を用いた校正.....	10
著作権および使用約款.....	10
メニューリファレンス.....	11
正規表現リファレンス.....	13

## はじめに

レポートなどの作成に際して、ある用語が統一されずに使われていると、読む者が混乱するばかりではなく、検索するときにも不便です。

例えば、テキストファイルの中で「Macintosh」という言葉が何度も使われているとしましょう。しかし、突然「マック」とか「Macintosh」などと用語に統一性がないと、その文献の利用価値が薄れます。

このソフトは、統一したい用語をあらかじめ登録しておけば何度でも用語を統一できます。そのための辞書はだんだん成長していくので、使い込めば込むほど強力な校正者となってくれるのです。

また正規表現を利用した検索が行えますので、テキストファイルの整形にも効果を発揮します。

一般的な<sup>TM</sup>Macintosh<sup>TM</sup>のインターフェイスを使用し

ており、テキストファイルをアイコンに重ねたり、メニューバーのファイルメニューからも開くことができます。フォルダを指定すると、フォルダ内のテキストを一括校正することもできます。

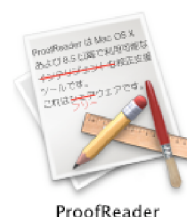
校正したいファイルを指定すると、用語を登録した辞書に従ってどんどん校正してくれます。校正が終了すると、校正結果のファイルを保存します。

またクリップボードに入っているテキストを校正することもできます。この場合は校正結果をクリップボードに格納します。

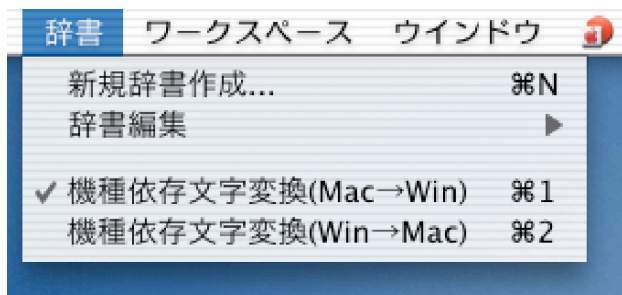
## チュートリアル

### 新規辞書の作成

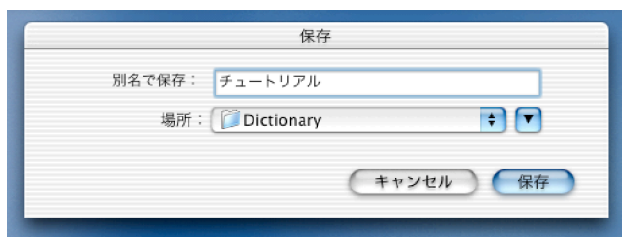
ProofReader<sup>TM</sup>のアイコンをダブルクリックして起動します。



[辞書]メニューから[新規辞書作成...]を選択します。



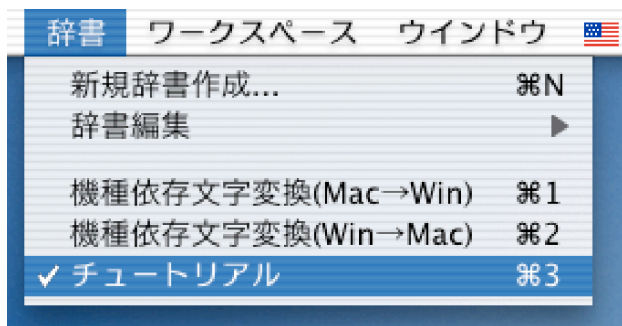
新しく作成するチュートリアル用の辞書の名前を「チュートリアル」とし、デフォルトの保存位置である「Dictionary」フォルダに保存します。



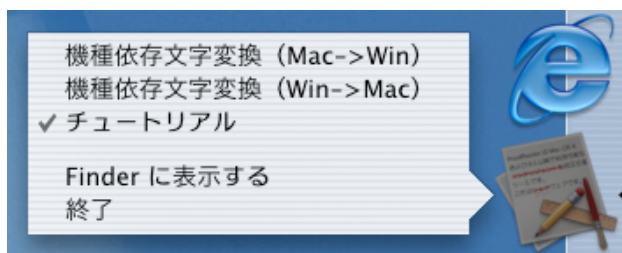
※ProofReaderは「Dictionary」フォルダ以外の場所にある辞書を認識しません。

### 辞書の変更

[辞書]メニューに追加された「チュートリアル」辞書を選択します。

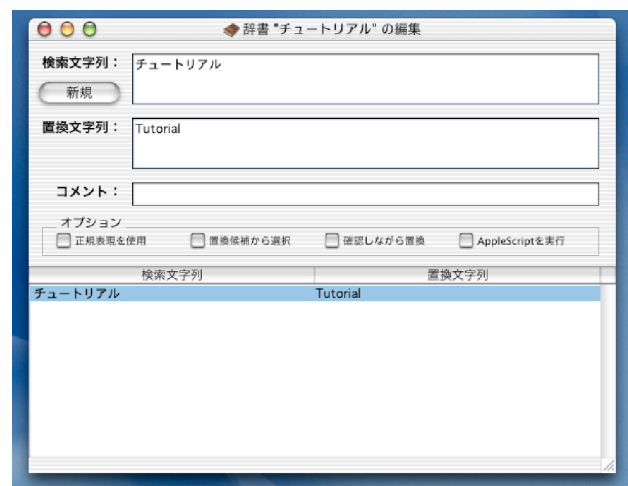
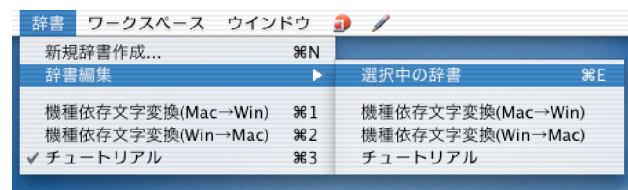


※Mac OS Xでは、Dockメニューからも辞書の変更が可能です。



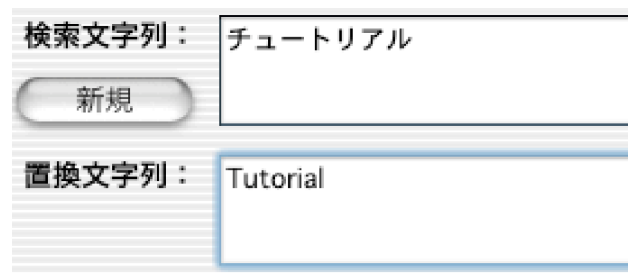
### 辞書の編集

[辞書]メニューから、[辞書編集]を選択中の辞書を実行すると辞書編集ウィンドウが開きます。



[新規]ボタンをクリックし、新しいセルを作成します。

[検索文字列]に「チュートリアル」、[置換文字列]に「Tutorial」と入力します。

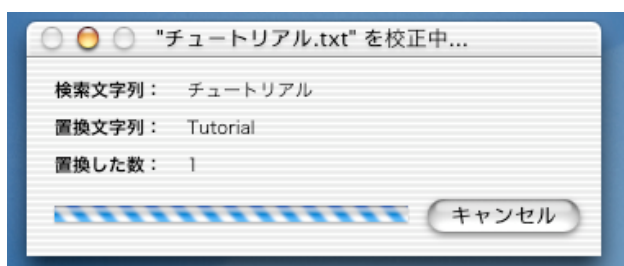


[ファイル]メニューから[保存]を選択して、変更を確定した後、[閉じる...]を選択します。

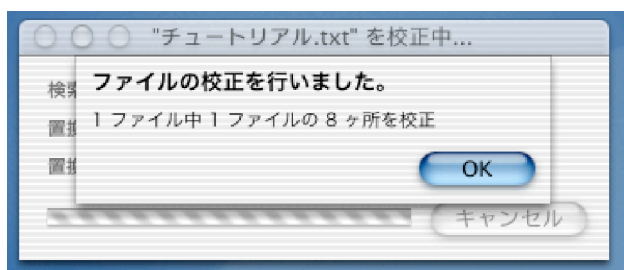
### ファイルを開く

[ファイル]メニューから[開く...]を選択し、ProofReaderのアプリケーションと同じフォルダにある「チュートリアル.txt」を選択します。  
※アプリケーションのアイコンにファイルをドロップして校正を開始することもできます。

以下のようなウィンドウが開き、校正作業がスタートします。  
校正作業は、辞書メニュー内でチェックがついている選択中の辞書を用いて行われます。



校正作業が終了すると、以下のような通知ダイアログが表示されてユーザに通知します。



### 校正結果の確認

「チュートリアル.txt」を校正した結果、「チュートリアル.txt\*」が作られています。  
元のファイルと比べてみて、正常に校正が行われているかどうか確認して下さい。

## 辞書の編集

辞書メニューの[辞書編集]配下の辞書のリストから辞書名を選択して下さい。すると、辞書編集ウィンドウが現れます。

選択中の辞書を編集する場合は、[選択中の辞書]からも辞書編集ウィンドウを開くことができます。



ここで、検索文字列と置換文字列を登録していきます。ProofReaderは辞書に登録された内容に従って、読み込んだテキスト中に登場する検索文字列を置換文字列に置き換えていきます。

### 検索文字列・置換文字列の編集

リスト中のセルをクリックすると、そのセルが選択されます。ウィンドウ上部の検索文字列フィールドと置換文字列フィールドを編集することで、リスト中のセルにも反映されます。リスト中のセルをダブルクリックして、直接編集することもできます。

[新規]ボタンをクリックすることで、新しいセルを作成します。空のセルが作成されますので、上記の方法で編集して下さい。

[delete]キーを押すことで選択されているセルを消去できます。

### 校正オプション

検索・置換文字列の組ごとに、以下の4種類のオプションを設定できます。

#### [正規表現を使用]

検索文字列の指定で、正規表現を用いた表記が可能になります。正規表現については「正規表現リファレンス」の項目を参照してください。

### [置換候補から選択]

複数の置換文字列がリストされたポップアップウィンドウを表示して、置換する文字列を選択しながら校正を行います。

置換文字列の指定時に、複数の候補を「|」で区切って表記します。

例えば、「登る|上る|昇る」と表記すると、以下のようなウィンドウを表示して、置換文字列の確定を求めます。

「|」自身を置換文字列に含めたいときは「¥|」と表記して下さい。

0	登る(置換しない)
1	登る
2	上る
3	昇る

コメント欄に、校正時に参照する注釈を書しておくことができます。置換候補と同じように「|」区切りで記述しておく、次のように参照することができます。

0	登る (置換しない)
1	登る 登 (木、滝)
2	上る 上 (階段、坂、うなぎ)
3	昇る 昇 (日、天)

上記の例では、コメント欄に「登 (木、滝) |上 (階段、坂、うなぎ) |昇 (日、天)」と記述しています。

### [確認しながら置換]

検索でヒットする度に置換するかどうかを確認します。詳細は「校正中の操作」の項目を参照して下さい。

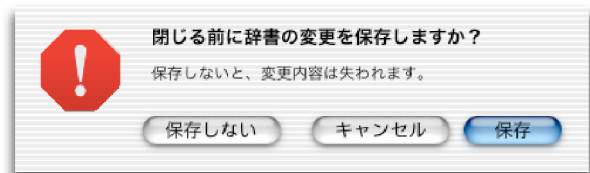
### [AppleScriptを実行]

検索がヒットしたときにAppleScriptを実行することができます。詳細は「AppleScriptの利用」の項目を参照して下さい。

### 辞書の保存

編集の結果を保存するときは、メニューバーから[保存...]を選択するか、ウィンドウを閉じるときに表示される保存確認ダイアログで、[保存]ボタンを

クリックします。



ここで、[保存しない]をクリックした場合は、辞書の変更を保存しません。[キャンセル]をクリックすると、辞書編集ウィンドウに戻ります。

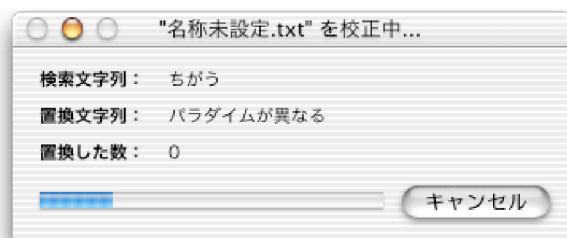
### [検索・置換文字列の移動]

リスト項目をドラッグして、順番を変えることができます。

また、複数の辞書ウィンドウを同時に開いて、リスト項目をドラッグすることで、辞書間でリストの内容を移すことができます。

## 校正中の操作

校正中は、以下のようなウィンドウが表示され、変換過程を見ることができます。

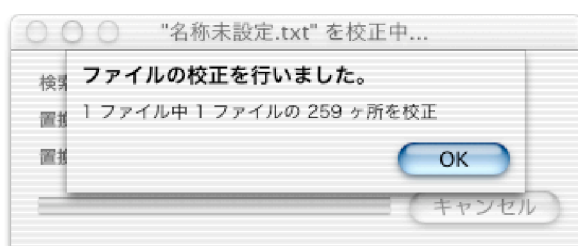


### 校正のキャンセル

校正中は、[cmd]+[.]キーの押下か、キャンセルボタンをクリックすることで作業を中止できます。このとき校正結果のファイルは保存されません。なお、テキスト中に校正すべき箇所がなかった場合は、校正結果のファイルは作成されません。

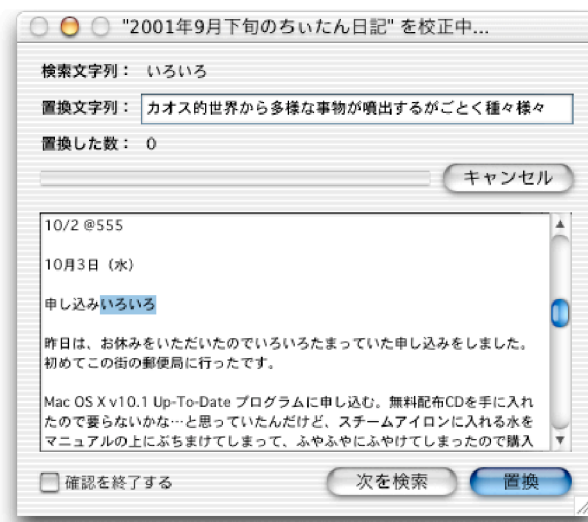
### 校正結果の通知

校正が終わると、[環境設定...]メニューで指定した方法に従って、校正結果をユーザに通知します。通知方法を「ダイアログで表示する」にしている場合は、以下のようなダイアログを表示して、入力ファイル数、実際に校正したファイル数、校正箇所数を通知します。通知方法の詳細は「環境設定」の項目を参照して下さい。



### 校正部分の確認

[確認しながら置換] および「置換候補から選択」のオプションを有効にしている検索文字列については、検索がヒットした際に、以下の確認画面を表示して、ユーザに置換の実行を確認します。

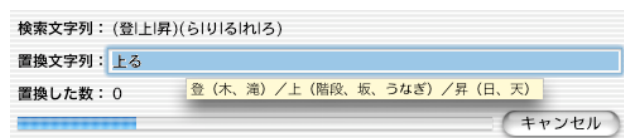


ここで、実際に置換を行う場合は「置換」をクリックします。「次を検索」をクリックした場合は、置換を行わずに検索を続けます。

確認画面の表示を行わないようにする場合は、「確認を終了する」にチェックを入れておきます。

「置換文字列」のテキストボックスは編集可能になっており、検索がヒットした箇所ごとに、置換する文字列を変更することが可能です。

校正中に参照する注釈をコメント欄に記述している場合、「置換文字列」のテキストボックスにマウスポインタを移動させることで、参照することができます。

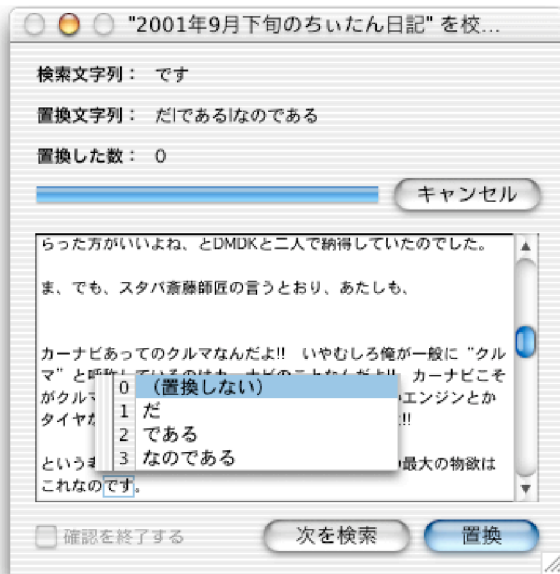


Classic Mac OS の環境では、バルーンヘルプ内に表示されます。



[置換候補から選択] のオプションを有効にしている場合は、以下のようなポップアップウィンドウから置換文字列を選択します。

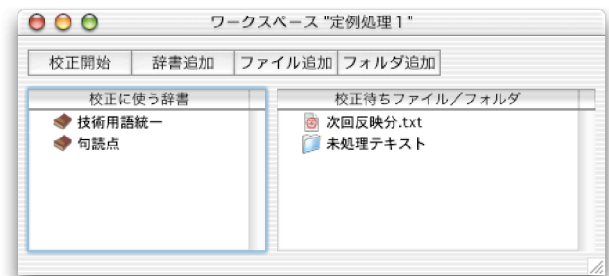
上下カーソルキーやマウスによる選択の後リターンキーで確定します。文字列のダブルクリック、あるいはテンキーを利用して置換文字列を確定することもできます。



また、日本語入力の場合と同じように、スペースキーで次候補選択、リターンキーで確定するという操作も可能です。

## ワークスペースを用いた校正

繰り返し、複数辞書を利用したり、複数書類を校正する必要がある場合、その組み合わせを「ワークスペース」として保存しておくことができます。



[ワークスペース]メニューから[新規ワークスペース]を選択し、ワークスペースウィンドウを開きます。

ウィンドウの左側に校正で使う辞書のリスト、右側に校正するファイル、フォルダのリストが配置されています。

### 辞書の追加

校正に使う辞書を登録します。リストに辞書ファイルをドロップするか、ウィンドウ上部の[辞書追加]ボタン、[ワークスペース]メニューの[辞書追加...]から追加を行うことができます。

リストのドラッグで辞書の順番を入れ替えることができます。

### ファイル・フォルダの追加

校正するファイル、フォルダを登録します。リストにファイルをドロップするか、ウィンドウ上部の[ファイル追加]、[フォルダ追加]ボタン、[ワークスペース]メニューの[ファイル追加...]、[フォルダ追加]から追加を行うことができます。

リストのドラッグで辞書の順番を入れ替えることができます。

### 校正作業の開始

ウィンドウ上部の[校正開始]ボタンのクリックか、[ワークスペース]メニューの[校正開始]から作業を開始します。

リストに登録されている順番に辞書を使用して校正を行います。

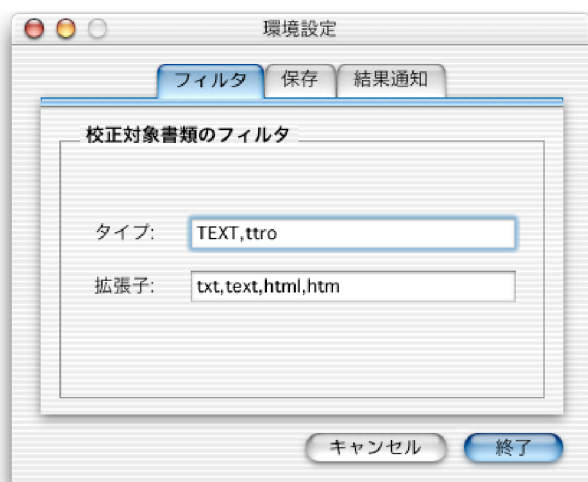
## 環境設定

「環境設定…」メニューを選択すると、校正対象とするファイルの取り扱いや、校正結果のファイルを保存する際のオプションを設定できます。

### [フィルタ] タブ

校正対象書類のフィルタリングを行います。[タイプ] ☐あるいは ☐拡張子 ☐のいずれかが一致しているファイルを校正の対象とします。

ProofReader ☐は、この条件から外れているファイルを読み込みません。



### [タイプ]

校正の対象とするファイルタイプを指定します。

### [拡張子]

校正の対象とするファイルの拡張子を指定します。

### [保存] タブ

校正の結果、保存するファイルに関する設定を行います。ファイル名、ファイルタイプ、保存位置を指定することができます。



### [ファイル名]

保存するファイル名の末尾に付加する文字列を設定します。元ファイル名にここで指定した文字列を付加したものが校正後のファイル名になります。デフォルトでは「\*」になっています。

テキストボックスをすべて空白にすると、元ファイルと同じファイル名で保存します。

最初のテキストボックスには、ファイル名の先頭に付加する文字列を指定します。2番目のテキストボックスにはファイル名（拡張子を含まない）の末尾に付加する文字列を指定します。

最後のテキストボックスには、拡張子を指定します。ファイル名に拡張子が存在しない場合は、ここで指定した拡張子が付加され、すでに存在している場合は置き換えられます。

それぞれのテキストボックスに以下の文字列を記述すると、ルールに従って展開されます。

表記	説明	展開結果
[年]	西暦 4 桁	2002
[00年]	西暦下 2 桁	02
[月]	月	1,2,...,12
[00月]	月 (2 桁)	01,02,...,12
[mon]	月 (英語省略形)	Jan,Feb,...,Dec
[month]	月 (英語)	January,February
[日]	日	1,2,...,31
[00日]	日 (2 桁)	01,02,...,31
[曜]	曜日 (日本語)	日,月,...,土
[day]	曜日 (英語省略形)	Sun,Mon,...,Sat
[longday]	曜日 (英語)	Sunday,Monday
[ampm]	曜日 (午前/午後)	AM,PM
[hour]	時 (24時間)	00,01,...,23
[12hour]	時 (12時間)	00,01,...,11
[min]	分	00,01,...,59
[sec]	秒	00,01,...,59

なお、ファイル名の変換の結果、ファイル名が31文字を超えてしまった場合は、ダイアログを表示してリネームを要求します。

### [クリエータを変更]

保存するファイルのクリエータを指定します。クリエータは直接入力もできますが、[参照] ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが開き、アプリケーションを選択することで、そのクリエータを得ることができます。デフォルトでは「txt」になっています。テキストボックスを空白にすると、元ファイルと同じクリエータになります。

### [保存場所]

ファイルを保存する位置を指定します。以下の3通りの方法があります。

### [元ファイルと同じ]

校正前のファイルと同じフォルダにファイルを作成します。このときファイル名に付加する文字列を空白にしておけば、元ファイルを置き換えることができます。

### [毎回指定する]

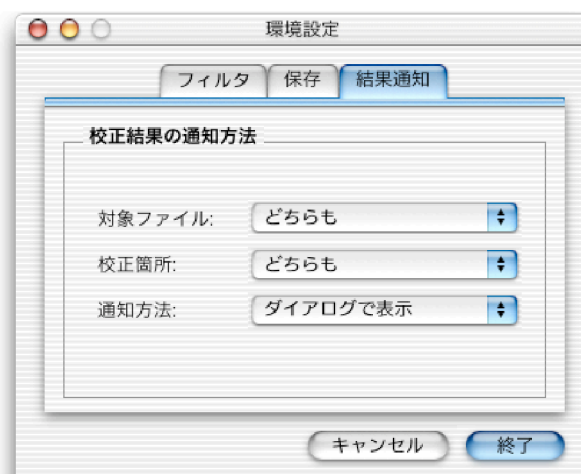
ファイルの保存を行うたびに、保存位置をダイアログで指定します。

### [固定]

常に固定のフォルダに保存します。[選択] ボタンをクリックして保存先のフォルダを設定しておきます。デフォルトでは「ProofReader」のアプリケーションのあるフォルダになっています。

### [結果通知] タブ

校正の結果を通知する方法を設定します。



### [対象ファイル]

通知するファイルの条件を選択します。校正対象のファイルが、一個の時（[一個の時]）、複数の時（[複数の時]）、一個か複数かに関わらず（[どちらも]）、の3通りを設定できます。

### [校正箇所]

校正結果を判断して、校正箇所がある場合（[ある場合]）、ない場合（[ない場合]）、あるなしに関わらず（[どちらも]）、の3通りを設定できます。

### [通知方法]

上の二つの条件を満たした場合にどうやって通知するかを設定します。ダイアログで知らせる（[ダイアログで表示]）、システムの警告音で知らせる（[システム警告音で通知]）、何もしない（[何もしない]）、の3通りの設定ができます。

例えば、たくさんのファイルをドロップして、その中で校正された物があるかどうか調べたいときは、対象ファイル「[複数の時]」、校正箇所「[ある場合]」という設定にします。



# AppleScript の利用

## AppleScriptを用いた校正

文字列を置換するかわりに、AppleScriptの実行を行うことができます。  
ProofReaderのアプリケーションのあるフォルダ内のAppleScriptフォルダにコンパイル済みスクリプトを準備しておき、置換文字列としてスクリプトのファイル名を指定します。  
校正オプションの [AppleScriptの実行] をチェックします。

実行するAppleScriptは以下の形式のものを用意します。

```
on run {searchString, fileName, startPos,
                                     strlength, counter}
    -- 以下に処理を記述する

    -- return で置換したい文字列を返す
    return (searchString)
end run
```

このAppleScriptに引き渡されるパラメータは、以下の5つです。

searchString	ヒットした文字列
fileName	校正中のファイル
startPos	ファイルの先頭からのバイト数
strlength	ヒットした文字列の長さ
counter	何番目にヒットしたか

ProofReaderは実行されたAppleScriptからreturnで返される文字列を、置換文字列として扱います。

AppleScript によるProofReaderの制御  
ProofReader は、以下の2つのAppleScriptの命令を取り扱うことができます。

```
proofread: 辞書を使用してファイルを校正する
proofread
a list of alias -- 校正するファイル
[using string] -- 校正に使う辞書名 (省略可)

clipboard: 辞書を使用してクリップボードを校正する
clipboard
[using string] -- 校正に使う辞書名 (省略可)

use: 校正に使う辞書を変更する
use
dictionary string -- 校正に使う辞書名
```

## 辞書の移行

ProofReaderの辞書ファイルは、テキスト形式ですので、簡単に辞書の一覧をとったり、テキストエディタを使用して辞書編集を行うことが可能です。  
テキストファイルのフォーマットは、

```
検索文字列[tab]置換文字列[tab]オプション[改行]
検索文字列[tab]置換文字列[tab]オプション[改行]
⋮
検索文字列[tab]置換文字列[tab]オプション[改行]
```

となっています。

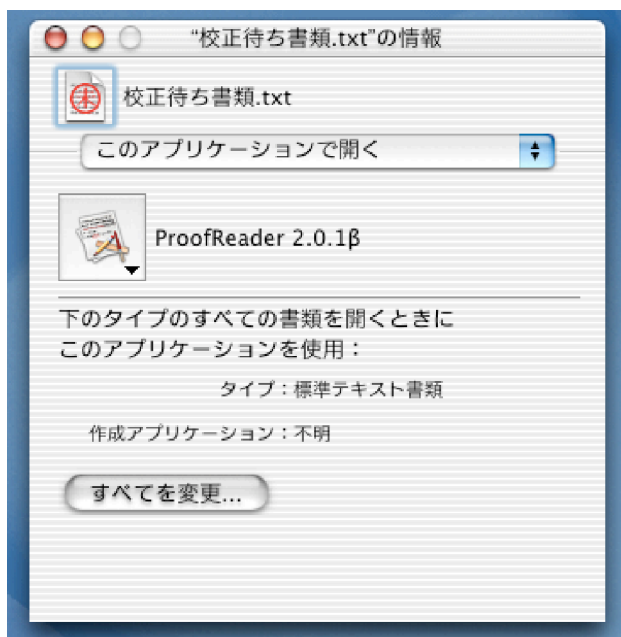
テキストファイルであれば、上記以外の形式のものも辞書として取り扱います。ProofReaderの辞書編集ウィンドウは、区切り文字が[tab]以外にも[半角スペース]と[,]であるファイルも受け付けます。また、オプション部分は省略可能です。  
辞書編集ウィンドウで保存し直すと、上記の形式に正規化されますので、他のソフトや旧バージョンのProofReaderで出力された辞書からも簡単に移行できます。

## 校正待ち書類を用いた校正

ProofReader<sup>TM</sup>は、校正待ちのテキスト書類をアイコンで容易に判別できるようになっています。



ファイルタイプが「TEXT」であるテキスト書類のクリエータを、FileBuddy<sup>TM</sup>などのファイル属性を変更できるツールを利用して「PfR2」に変更するか、Finder のインスペクタの「このアプリケーションで開く」から、ProofReader<sup>TM</sup>を指定することによってProofReader<sup>TM</sup>の校正待ち書類にアイコンを変更することができます。



校正待ち書類アイコンをダブルクリックすることによって、ProofReader<sup>TM</sup>を起動し、自動的に校正を開始することが可能です。

## 著作権および使用約款

このアプリケーションはフリーウェアです。全てのドキュメントおよび実行ファイルの著作権は作者に帰属します。ただし作者は理由の如何を問わず、このアプリケーションに関して保証を行ないません。また間接・直接にかかわらずこのソフトによって生じた損害に関して責任を負うものではありません。辞書の著作権は作成したユーザに帰属します。ProofReader<sup>TM</sup>を使っていて、有用な辞書や、面白い辞書ができたらずいネットワークなどで発表してみてください。

## メニューリファレンス

### [アプリケーション] メニュー

#### [ProofReader について...]

アプリケーションの情報を表示します。

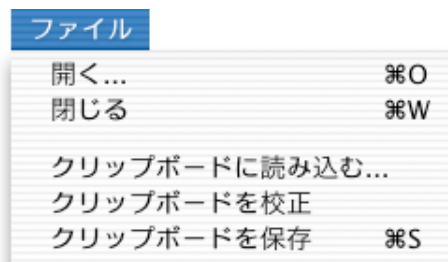
#### [環境設定...]

ファイルの取り扱いに関する設定を行います。詳細は「環境設定」の項目を参照して下さい。

#### [終了] (cmd+Q)

アプリケーションを終了します。

### [ファイル] メニュー



#### [開く...] (cmd+O)

ファイルを読み込み、辞書に従って校正します。

#### [フォルダを開く]

選択したフォルダ内のファイルを全て読み込み、辞書に従って校正します。

#### [閉じる] (cmd+W)

開いているウィンドウを閉じます。

#### [クリップボードに読み込む...]

ファイルをクリップボードに読み込みます。読み込み後は [クリップボードを校正] のメニューを使って用語統一を行って下さい。

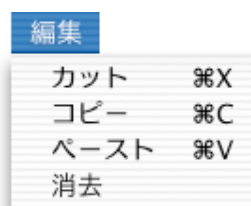
#### [クリップボードを校正]

クリップボードの内容を、現在選択されている辞書を用いて校正します。

#### [クリップボードを保存] (cmd+option+S)

クリップボードの内容を、テキストファイルに書き出します。

### [編集] メニュー



#### [カット] (cmd+X)

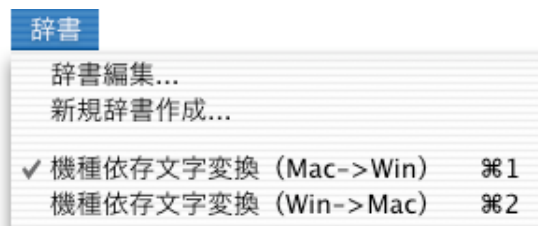
#### [コピー] (cmd+C)

#### [ペースト] (cmd+V)

#### [消去]

文字編集の際に、それぞれの機能を使えます。

### [辞書] メニュー



#### [辞書編集...]

辞書内容の編集を行います。詳細は「辞書の編集」の項目を参照して下さい。

#### [新規辞書作成...]

新たに辞書ファイルを作成します。保存ダイアログが表示されるので、辞書名を決めて下さい。辞書の保存場所はアプリケーションと同じ階層にある [Dictionary] フォルダにして下さい。

### **辞書名（それぞれの名前）**

アプリケーションの起動時に、アプリケーションと同じ階層にある [Dictionary] フォルダ内の辞書の名前がメニューにリストされます。辞書名を選択すると、参照する辞書の切り替えができます。辞書名の順にリストされますので、頭に番号をつけるなどすれば、リストされる順番をソートできます。

## 正規表現リファレンス

ProofReader では検索文字列内で以下の形式の正規表現を利用することができます。

**\***

文字の0回以上繰り返しを表します。「さる\*」は「さ」「さる」「さるるる」などにマッチします。

**+**

文字の1回以上繰り返しを表します。「X+」は「XX\*」と等価です(Xは任意の文字)。「さる+」は「さる」「さるるる」などにマッチしますが、「さ」にはマッチしません。

**?**

文字の0回もしくは1回を表します。「X?」は「X|)」と等価です(Xは任意の文字)。「さる?」は「さ」「さる」にマッチします。

**| (縦棒)**

連結を表します。「abc|def」は「abc」もしくは「def」にマッチします。連結は、全ての正規表現の中でもっとも優先順位が低いので、「Abc」もしくは「abc」にマッチさせようと思って「A|abc」と書くのは間違いです。この場合は、「A」もしくは「abc」と解釈されます。しかたって、「(A|a)bc」と書かなくてははいけません。

**()**

括弧です。優先順位を変化させることができます。たとえば、連結よりも繰り返しは優先順位が高いため、「さる\*」は「さ」「さる」「さるるる」等にマッチするわけですが、「(さる)\*」と書くことにより、「さる」「さるさる」等にマッチさせるようにすることができます。

**. (ピリオド)**

任意の1文字にマッチします。「あ.う」は「あい」「あAう」などとマッチします。改行ともマッチします。

**[ ... ]**

文字の集合です。[abc]はaとbとcのどれか1文字を表します。つまり「(a|b|c)」と等価です。また、「-」ハイフンを使って[a-z]の用に、aからzまでのどれかというふうに使うことができます。「[a-cd-efgh-k]」等という使い方もできます。ただしハ

イフンを用いる場合は、純粋に文字コードのみでチェックを行うため、「[あ-お]」等は、「あ」「い」等にもマッチしてしまいます。メタ文字は「¥t」「¥a」「¥n」「¥r」「¥f」「¥e」「¥¥」「¥」が使えます。

**[^ ... ]**

文字の補集合です。[abc]はaでもbでもcでない、それ以外の任意の1文字とマッチします。「[ ... ]」と同じルーチンを利用していますので、書式の詳細は「[ ... ]」と同じです。^ (キャレット) はかならず「」の次に来なくてははいけません。

**^**

「[ ... ]」の外側にある^ (キャレット) は、行頭を表すメタ文字として解釈されます。これは、行の先頭の文字の直前にマッチします。具体的な文字にマッチするわけではないことに注意してください。「^」という一文字だけの正規表現は文字列の先頭の0文字にマッチします。

**\$**

行末、文字列末を表すメタ文字です。これは、行の末尾の文字の直後にマッチします。具体的な文字にマッチするわけではないことに注意してください。「\$」という一文字だけの正規表現は文字列の行末の0文字にマッチします。

**¥**

全てのメタキャラクタは、直前に「¥」をつけることにより、その文字そのものを表すことができます。「¥?」や「¥(」はそれぞれ「?」「(」とマッチします。「¥¥」は「¥」とマッチします。ただし、「¥」のあとにアルファベット、数字等がくるものの一部は、特別の意味が定義されています。

**¥t**

tab(9)とマッチします。

**¥a**

bell(7)とマッチします。

**¥n**

LF(10)とマッチします。

**¥r**

CR(13)とマッチします。

**¥f**

FF(12)とマッチします。



## ¥e

ESC(27)とマッチします。

## ¥w

すべての英数文字とマッチします。[A-Za-z0-9]と等価です。

## ¥W

すべての英数文字とマッチします。[^A-Za-z0-9]と等価です。

## ¥d

数字とマッチします。[0-9]と等価です。

## ¥D

数字以外とマッチします。[^0-9]と等価です。

## ¥s

改行、スペース、タブとマッチします。  
(¥n|¥r|¥f|¥t| )と等価です。

## ¥S

¥s以外の文字とマッチします。

## ¥1

全ての半角文字とマッチします。

## ¥2

全ての全角文字とマッチします。

## ¥<

単語の先頭にマッチします。具体的には、改行、文頭、空白（Tabを含む）の次に、それ以外の文字が来ているような組み合わせだった場合、文字（改行、文頭、空白）と文字の間にマッチします。具体的な文字にマッチするわけではないことに注意してください。「ballpen pencil」という文字列があったときに、¥<penは、「ballpen」の「pen」部分にはマッチしませんが、「pencil」の「pen」の部分にマッチします。

## ¥>

単語の末尾にマッチします。具体的には、改行、文頭、空白（Tabを含む）以外の文字の次に、改行、文頭、空白（Tabを含む）が来ているような組み合わせだった場合、文字と文字（改行、文頭、空白）の間にマッチします。具体的な文字にマッチするわけではないことに注意してください。「pencil ballpen」という文字列があったときに、pen¥>は、

「pencil」の「pen」の部分にはマッチしませんが、「ballpen」の「pen」部分にマッチします。

## ¥b

単語境界にマッチします。これは、「¥<」と「¥>」の両方の性質を組み合わせたものと考えれば良いでしょう。具体的には、文字列中のある2文字に注目した場合、改行、文頭、空白（Tabを含む）とそれ以外の文字の組み合わせだった場合（順不同）、文字と文字の間にマッチします。具体的な文字にマッチするわけではないことに注意してください。たとえば、「ballpen pencil pen」という文字列があったときに、¥bpen¥b は、「ballpen」や「pencil」にはマッチしませんが、最後の「pen」という単語にはマッチします。また、「¥b pen」なら「ballpen」の「pen」の部分に、「pen¥b」なら「pencil」の「pen」の部分に、それぞれマッチします。この場合は、「¥<pen¥>」と書いても、同様の検索を行うことができます。

## 置換文字列内で使える表現

### ¥t

tab(9)とマッチします。

### ¥r

CR(13)とマッチします。

### ¥|

[置換候補から選択] オプションを有効にしている際に、「|」自体を表します。

## 後方参照

置換文字列内では暫定的ながら後方参照が利用できます。

### \$1 ~ \$50

それぞれ、検索文字列中の1 ~ 50番目の括弧でくられた部分にヒットした文字列を参照できます。

### \$0

ヒットした文字列全体を参照できます。

※現在、後方参照の機能には制限があり、括弧のなかに[あ-お]といったような全角の文字集合がある場合正しく処理できないことがわかっています。

その場合は、(あ|い|う|え|お)などと表記する方法での対処をお願いいたします。

## ☐